6
神呪(しんじゅ)のネクタール
原作
吉野弘幸
漫画
佐藤健悦
Champion RED Comics
RED

6
神呪のネクタール
しんじゅ
原作 吉野弘幸
漫画 佐藤健悦
RED

前巻までのあらすじ

迷宮の島・ネレイア島にて、少女シエラと出会ったカイ。彼女は、人魚の末裔と言われる民・ネレイデスのひとりだった。ネレイデスは、ダーラ共和国の支配の下、「人魚の血」と呼ばれる麻薬製造の実験体とされていた。ダーラに追われ、迷宮に逃げ込んだカイとシエラ。迷宮深く隠されていた"蒼海の秘宝"によって目覚めたシエラは、カイに呪乳（ネクタール）を与え、水帝（オケアノス）の力を発現させる。その力でダーラの艦隊を壊滅させたカイは、東方の国「ヤシマノ国」へ新たに旅立つ!

アルビオン
ダーラ
ランドルール地方
《タリアーデ海》
《マラガ亜大陸》
《ローレンシア大陸》
ネレイア島

登場人物

カイ・ワタリ
異世界に召喚された"稀人"。"呪乳"の力を得て無敵の戦士に変身する。サクラの義兄・グレイの遺志を継ぎ、サクラを守ろうと決意する。

サクラ・シャクンティーラ・アドニエラ
ダーラ共和国に滅ぼされたアダール侯国の姫。乳房に神秘の力を宿す"神妃"。その力のため、ダーラ共和国に追われる身となる。

ギル＝ガーラ
暗殺者集団"ハサス"の一員。凄まじい戦闘力を持つ傭兵。かつてダーラに雇われ、この世界に現れたばかりのカイを刺し、殺しかけた。

ジャック・ディアス
レムリアンカンパニーの軍人。海軍大佐。新型艦ホルトハースを駆る。元海賊で、豪放磊落な海の男。リギア少尉とは旧知の仲らしいが…？

目次 CONTENTS

初出／チャンピオンRED 2018年10月号～2019年1月号

第21話／ヤシマノ国

ザザザァ
北タリアーデ海
――ネレイア島から
カーセルの航路上――
あと三日で
カーセルに着くって…
この船
そんなに足が
速いんですか？
観察が
足りんな
グレイ殿
貴・殿・の・
素性なら
理由は察しが
つくのでは
ないか？
？

そういえばこの船
外輪がないんだ
でも煙突はあるから蒸気機関を積んでる――
ザバ
つまり――
スクリュー推進!!?
正解だ
ギュゴ
キキキ
スクリューとは…?

水をかき回す
羽のようなものだ
リギア殿
ギッ
あ…あなたには
聞いていません
ディアス卿！
？
それは
失礼した
ガランドアの
ドワーフたちも
スクリューについては
知らないようでした
いずれ時期を見て
概念を教えて
発注するつもりでした
が――
先を越されましたね
どこの発明ですか？
ザザ
発明…か
それはどうかな
ザザァ
もしかして…
マレビトが？
まだ可能性の
段階だがな

――この技術の元になっているのはヤシマノ国の新型船だ
我々がこれから向かう…？
そうだ
ほんの50年前までは未開の辺境に過ぎなかった鬼人の国が
最近異常な急速発展を遂げている

さらにこれは
まだ噂の段階
なのだがな
グレイ殿
彼の地では
神々の力に頼らず
電気を使って
遠距離で情報を
伝える手段が
開発されている
という

電気通信技術が……!!?
我々がいま一番欲しい技術だ
軍事において遠距離で通信が出来ることはかなりの有利に繋がる
だが生憎とおれも詳しい構造までは知らず――
セレアさんやドワーフたちに概念は伝えたものの
電気工学はさすがに実現には至っていなかった
む～～
見えてきましたよ
つまり今回の任務というのは――

ヤシマノ国を探れ
その技術の源泉を
突き止め
可能なら奪ってこい
丁度
ヤシマ政府から
カンパニーに軍事指導の
依頼が来ている
これを受ける形で
お前の隊を
派遣する
――っ
了解です…が
指導となると
俺には――
わかっている
今回はお前も
同行しろ
ディアス
了解です
閣下
――陸の任務は
久しぶりだが
よろしく頼むぞ
グレイ殿

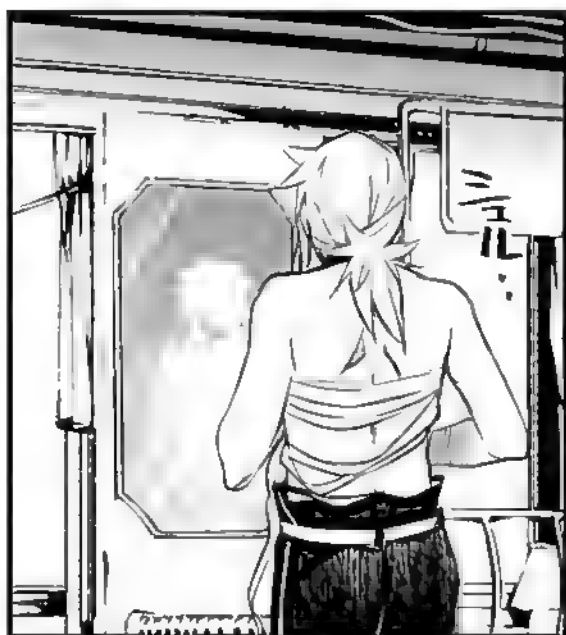
――そうだ 一つ
言い忘れていたが

ヤシマノ国には
お前に何かと
因縁のある
あの・・・連中の
本拠地も在るぞ

あの連中…？

暗殺者集団――
〟バサス〟だ

……‼

シュル…
バサ
殺されかけたのは
これで二度目か…
…神呪化してなきゃ
両方アウトだ
大したモンだよ
まったく
ボフ

〝マレビト〟か……
俺のように
元いた世界から
この世界に
様々な国
様々な時代から
召喚された人間——
その知識や力が
この世界を
急速に近代化し
科学の発展を
加速させている

一方で
神呪の力のような
科学では説明
できない力も
残っている
アンバランス
なんだよな
…いろいろ
ムク
コンコン
少し…
よろしいでしょうか
リギアか…
入れ
ガチャ
!!
カァ

バッ
お着替え中でしたか!!
失礼しました!!
すまない
で 何の用だ

その…今回の任務
私もお供しなければならないでしょうか…
軍の技術指導ということだからな
それに サクラ姫もドルネアもついてくると言い張ってる
今回は軍の仕事なので彼女たちも軍属のフリをさせなければならないし
大尉には色々頼るつもりでいたが…
そう…ですよね
何か問題が?

いえ!!
なんでもありません
——失礼しました!!
……?

そうだ
これは任務なんだ
なのに私は——っ

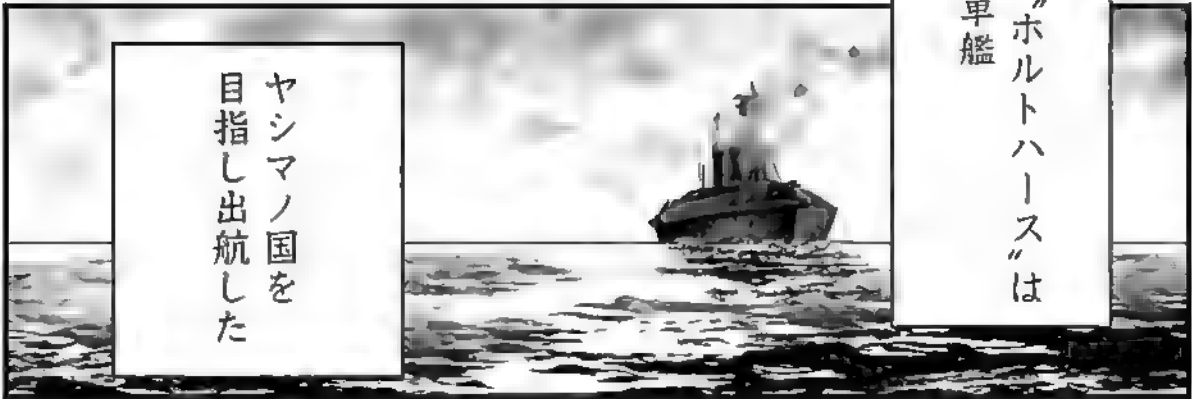
おお
これは
リギア殿

丁度よかった少し話を――

ディアス卿!!

わっ私には貴殿と話すことなど何もないっ!!!

そうこうしているうちに――

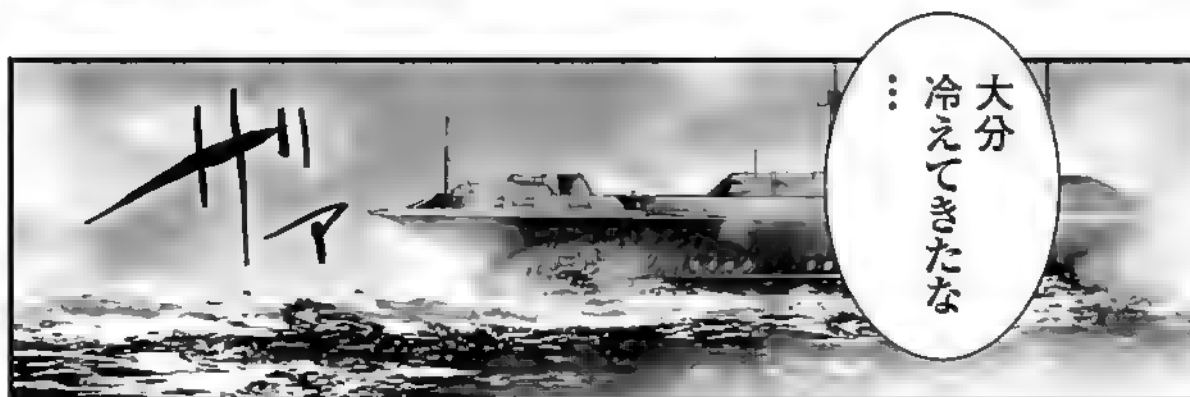
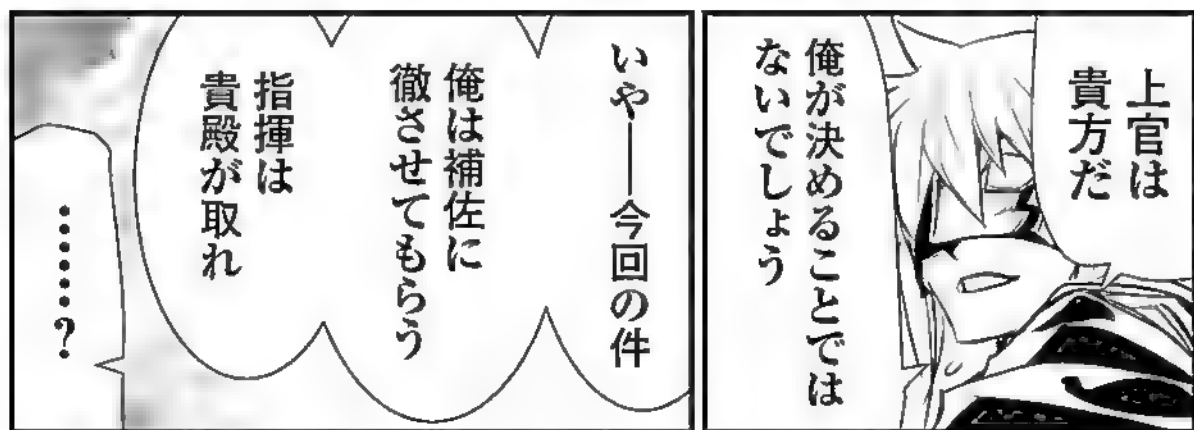
船はカーセルに寄港
リュカ殿はそこで下船し――
代わりにカーセルで待機していたアランたちを乗せ
〝ボルトハース〟は単艦
ヤシマノ国を目指し出航した
軍令部より
レムリアンカンパニーの派遣部隊は
我が方面軍に配置されるとの通達がありました
そうか…

戦線の状況は？

芳しくありません
棄民どもは退却しつつ抵抗を続けているようです

ふむ…

——そこでだ
ひとつレムリアンの手並みを拝見しようと思うのだが……
妙案かと思います

ザァ
大分冷えてきたな…

このあたりは緯度も随分高いしな
——あれがヤシマノ国だ
——見えてきたぞグレイ殿

さて
どうする少佐
ウチの航海士たち
ならこの霧でも
問題なく接岸できるが
普通なら
霧が晴れるのを
待つところだ
大佐ディアス
上官は
貴方だ
俺が決めることでは
ないでしょう
いや──今回の件
俺は補佐に
徹させてもらう
指揮は
貴殿が取れ
……？
〝グレイ・エンフィールド〟は
俺の親友だった
貴殿がその名に
値するか──
今回の任務で
見極めさせてもらう

ゴゴ…
承知した
——では
接岸準備を

本当に——
船で待機なさるつもりはないのですか？
ええ
はい
服はこのとおり用意させていただきましたが…
ぬぎ

まあ!!
ふふ
リギアさんを
見ていて
一度着て
見たかったのです
いいですか
軍属のフリを
する以上
誰も姫たちの
身分を考慮しては
くれなくなります
ヤシマノ国は
色々と独特な
習慣を持つ国だと
聞きますし
不快な思いを
される可能性が
……
そのくらい
かまいません

サクラさま…
…わたしたち
シエラさんと約束したんです
万一のときはいつでも神呪の力を授けることができるように
できるだけカイから離れないと――

お二人は本当にグレイ少佐のことを想ってらっしゃるんですね…
あら それは…
リギアさんだって同じでしょう？
わっ わたしは!!
上官として尊敬しているというか
その――
――さあ 皆さん 急ぎましょう
ボヤボヤしてると船が着いちゃいます!!

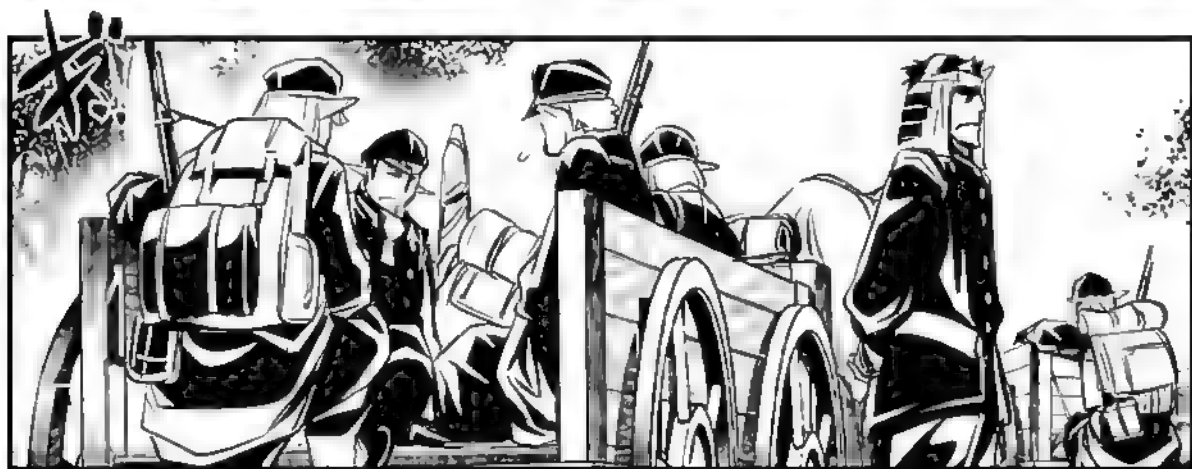
あのっ
生憎のお天気で
申し訳ないのですが…
ようこそ
おいでくださいました
レムリアン公司の
皆様
自分は
皆様のご案内を
させていただきます
カナヤ従六位であります
従六位？
あ…!!
わかりにくくて
すみませんっ
だいたい少尉と
同じくらいです

それで
みなさんには
これから少し
長距離を移動
していただきます
馬車と列車を
用意しましたので
こちらに
ザッ
ビくっ
ピク
チッ

ジャキ
無礼な!!
触るな亜人!!
ああ?

話には
聞いていたが
ここまでとは
ああ

バカカ
このヤシマノ国は
長く鬼人が支配階級を形成しており
他の種族に対する差別意識が強いという――

特に獣人種はかなり最近まで家畜扱いされていたらしく
その意識は未だに人々の中に根強く残っているらしい

なかなか
前途多難
そうだ…

そして
列車に
乗り換えた
俺たちは

貨車…

……

ヤシマノ国
―北方戦線駐屯地―

長旅ご苦労さまでした

自分はコバキ従四位こちらのアラギシ従二位の副官を務めさせていただいております

ご苦労でした
この基地を任されている
アラギシです

グレイ・
エンフィールドです

カナヤ従六位
兵士諸君に
兵舎の案内を
士官方は
こちらに

しかし
任務に
女連れとは…
しかもなかなか
奇矯な趣味をして
いらっしゃる

――皆
有能な部下たちです
成る程

クラッツ大尉
一つ申し上げておくことがあります
なんでしょう？
我が軍ではあまり女性が歓迎されません

亜人種の兵も然り――
皆あまり見慣れておらぬ故
会えば驚くものたちもいるでしょう
できれば
貴兄等にはあまり出歩かないでいただきたい

何だと…!!?
隊長
…承知しました
言い聞かせておきましょう
ザッ
エルフの雌豚が偉そうに…
なぁ———…!?
ピキ…

!!?

ビキィィ

アルビオンの兵がなぜ…!?

旦那様
如何なさいます?

かまわぬ
計画通りに行くぞ

…自分たちは訓練の指導の為にここに呼ばれたと記憶していますが
無論 そのためです

――まだ歴史の浅い我が軍に
アルビオンの戦術や訓練法をご教示いただきたい
そのためには実戦が第一かと
何 つまらぬ地方の叛乱です
名にし負うレムリアンの軍勢であれば たわい無い相手でしょう
………

ガシャーン
!!?
侵入者だ!!
基地内に侵入者だぞ!!
亜人かっ!!?
劣等種族の分際で!!
ダダダ

行けシズナ!!

どうやら
数は少なそうだが…

現場で指揮は執られ
ないのですか？

狼狽える
必要などない
わが部下たちは
勇猛な武士の末裔
命令などなくとも
見事討ち取って
くれるでしょう

では失礼して
俺は
部下たちに
指示を出して
来ます
ご自分の部下を
信用なさらないので？

いいえ
――ですが
指揮官の仕事は
つまり
部下を指揮する
ことですからね
然り――だな
行こう!!!
大丈夫か？
生身の戦いは
からきしと
きいているが
その分逃げ足は
早いんです
ディアス殿は
状況の把握を
お願いします
俺は部下と
姫たちのところに
了解だ!!

少数で基地に
突入なんて…
自殺行為だ
誰が
何の目的で——!?

!!!

貴様は…
ギル＝ガーラ…!!

第22話／捕らわれし姫

ギル＝ガーラ…

なんて因縁だよくそっ……!!

ヤシマの基地に単身乗り込んでこの騒ぎ…何が狙いだ!!?

貴様には関係ないことだ

いたぞ!!
侵入者だ!!
やれっ!!!
ち……
ドドド
っ!!

少佐!!!
リギアか!!

カイ!!
カイさま!!
二人とも…
なぜ出てきた!?
それは――
――!!

ズバァァ
カイさまを
お守りするため
です!!!
ッ!!!
ギリ
私たちは
シエラさんと
約束したんです
ギリッ

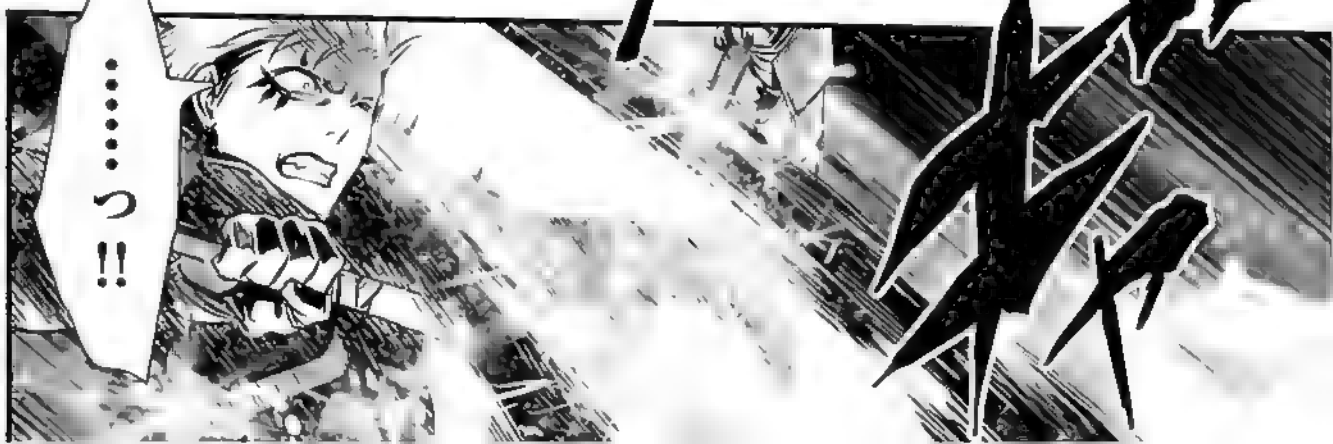
いつでも力になれるように
できるだけ側にいると!!
……!!
カイさま
わたくしの乳房には神の呪いが宿っております
ぺろ
それでも口づけてくださいますか?
たゆん

――ああ
んっ……くぁふ……っ
…んん…っ…
――ああ…っ…!!!
なんだ……
な…

まさか…
〝禁呪の傀儡〟か!!?
ちいっ!!

まだ賊は捕まらぬか
いずれ時間の問題かと
……
ん。。。
動くなよ
ヒタ
……!!
…外の騒ぎがこれ見よがしなのが気になってな
戻ってみたら案の定――というわけだ

……っ!!

ズザァ

どうしたシズナ…
お前の腕ならとうに仕事を終えている筈だというのに——

そこまでにしなハサスの！

!!?

シズナ…!!

だが
その目論見は潰させてもらった
——諦めて降伏しろ
何を言う！暗殺者に降伏などありえぬ!!
そっ首取って従二位に献じるのだ!!
オオオ!!!
馬鹿やめろ!!

ズザ
!!!

ザッ
サクラさま!!
くそっ!!
逃がすな!!
亜人の人質などかまわん
撃てッ!!!
追えっ!!

シュウウウウ
!!?
う…
うわ…

シズナ…!!
バッ
ギ
…さて
こいつは少し
面倒なことに
なりそうだな…
〃禁呪の傀儡〃だと!?

は…目撃した兵たちによればあのグレイとかいう男が変じたと…!!

レムリアンめ…よくもそんなモノを差し向けてきおって……

まさか

我らの計画がアルビオン側に漏れているのではあるまいな

…幸い刺客の一人が捕らえられているそうです

よし どんな手を使ってもかまわん

——早急に〃あの男〃についての情報を引き出せ

ムコォォォ
う……
ヨロ
パチ…
!
ズザ
ギロ

貴方はハサスの傭兵…ですよね
アダールを襲ったうちの一人――
パチ…
……
その後も私と兄上…グレイ少佐を追いかけてきた――
あの男は誰だ？

あの男…？
グレイ・エンフィールドを名乗っている偽物――
呪装者になっている優男だ

――次の手を
打つためにも

引き出せるだけ
情報を引き出す

私は殆ど何も
知りません…

…それに貴方の
仲間も捕らえられて
いる筈――

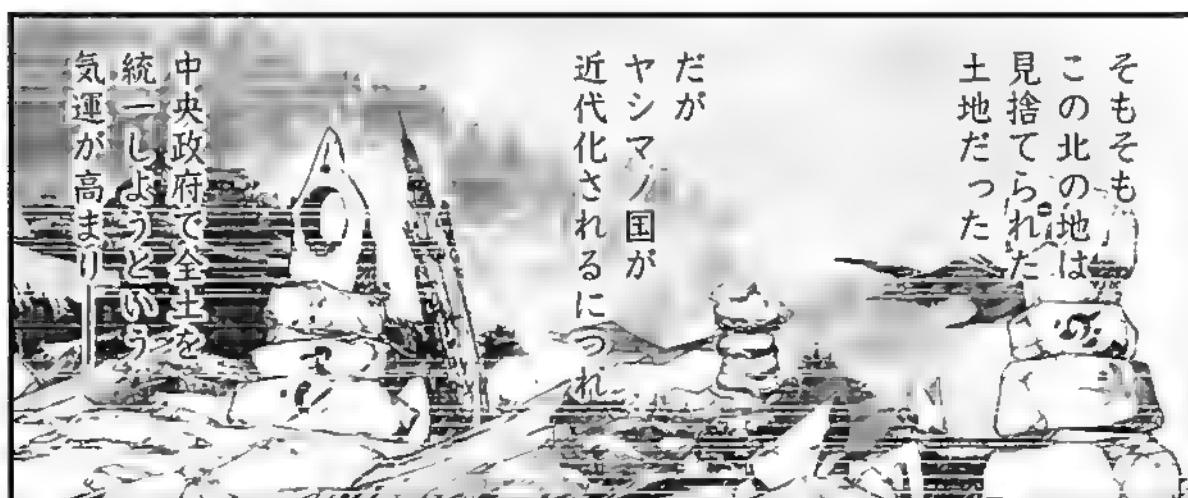
今回の仕事はカネで雇われたいつもの請負仕事ではない

俺たちハサスの命運に関わるものだ

——俺もシズナも

この任務を拝命したときに命は捨てている

……!!
掟に則り(のっと)
必要あれば
仲間のために
命を捨てる
——それが我ら
〝ハサス〟だ
〝ハサス〟は
傭兵集団として
有名だが——
実際のところは
原始宗教を基礎にした
共同体に近い
元々は
ヤシマノ国の
被差別民や
逃亡奴隷たちの集落
から始まっていると
言われている
ザッ

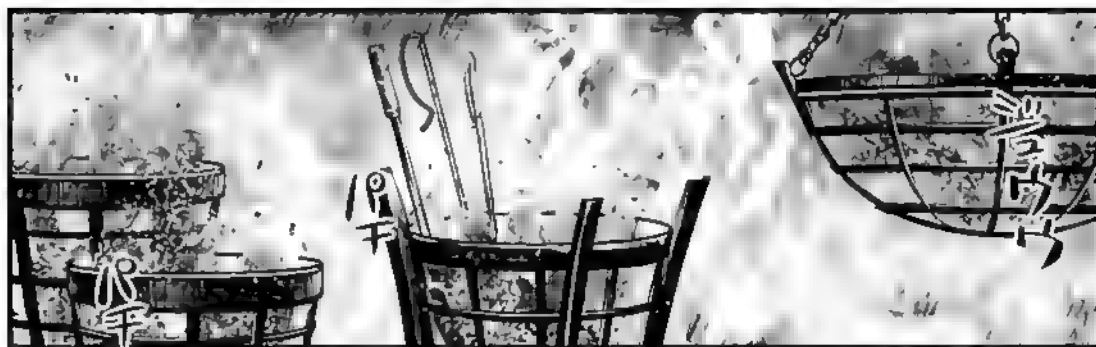
※パンナ＝ケア大陸北西部に位置する国々。アルビオン王国やダーラ共和国もここに含まれる。

そもそも
この北の地は
見捨てられた
土地だった

だが
ヤシマノ国が
近代化されるにつれ

中央政府で全土を
統一しようという
気運が高まり――

――この北の地に
住まう
〝まつろわぬ者達〟
と衝突し

現在の内紛状態に
至る――

というわけか

コン
コン

どうぞ

あのっ…
失礼します

ギィ

どうしました？
カナヤさん

すみませんっ!!!

面倒を見てくれと
いわれていた
氷姫（グラキエス）の女性ですが
……

ジュウウウ

パチ

パチ

ふむ

ジャラ…

氷姫は炎に極端に弱いというが…事実のようだな

ですとも！

これで氷結の力は完全に封じられますよ…

ジリ
些か暑いのが難でありますがね
ジリ
……
いつまでも炙られるのは辛かろう
──〝あの男〟の居場所を吐け
そうすればすぐに殺してやる
……
口が利けぬのか？
従四位殿が訊ねておられる!!
答えぬか亜人めが!!
ふむ
喋れるではないか
あぐっ……!!
…あやつがハサスに保護されたことは判っている!!

――お前は
絶対に知っている
!!

…旦那様……

ご安心ください

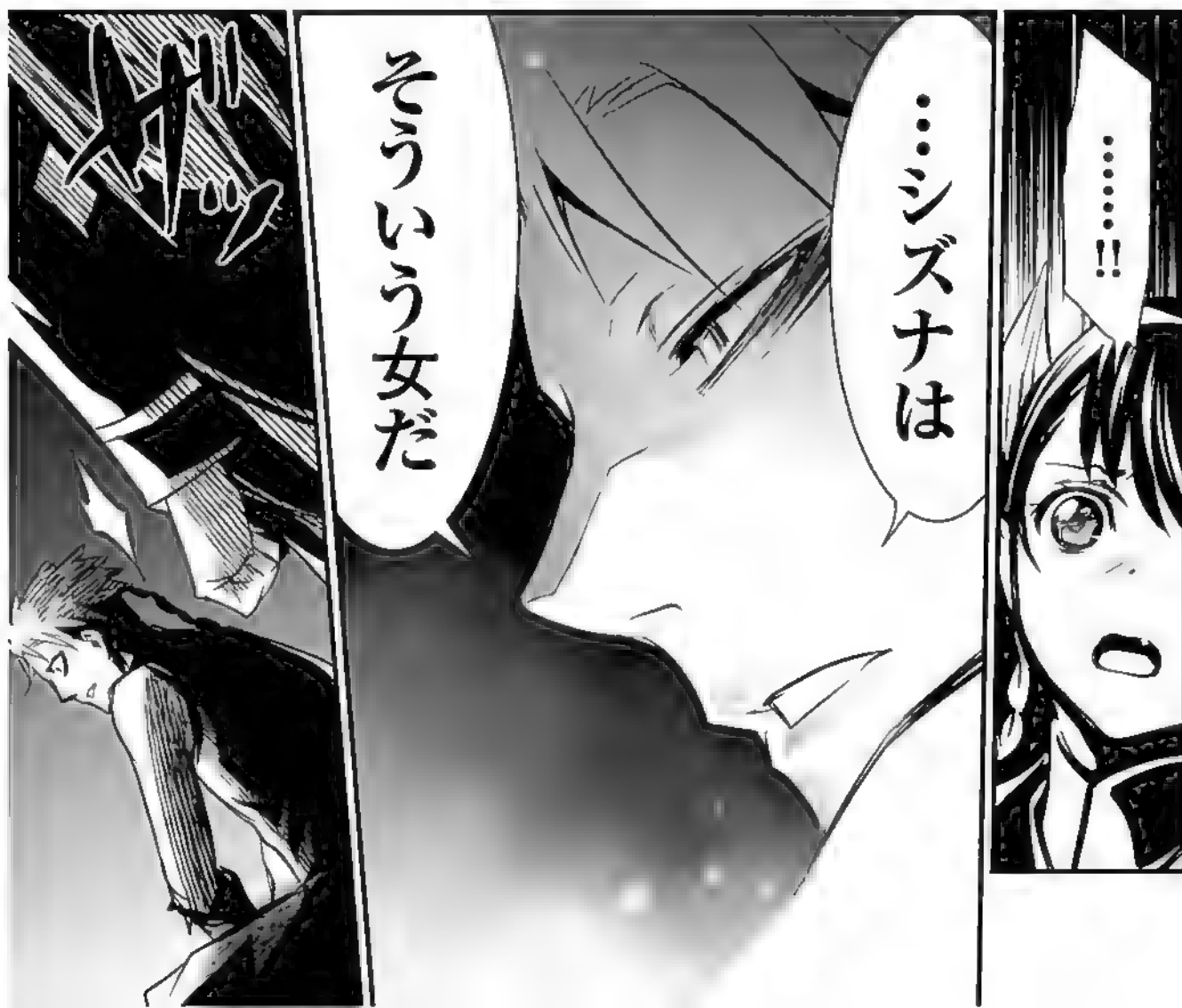
…たとえどれだけ打たれようと切り刻まれようと…

シズナは笑って耐えてみせます…

捕まったシズナは拷問にかけられるだろうが…心配などしていない

そんな…あの女性を見捨てるのですか!?
見捨てるもなにもない

あいつは掟に則り口を噤んだまま
立派に死んでみせるだろう…

……!!
…シズナは
そういう女だ
ザッ

馬鹿っ!!!
なっ…貴様――
あなたは馬鹿です
大馬鹿ですっ!!!

いまあなたは
そのシズナさんのこと
『そういう女だ』って
言いました
…とてもよく
知っていて
すごく身近で…
信頼している
大事な人
なのでしょう!?
絶対に助けなきゃ
ダメです!!
立派な死なんか
ありません!!
死んじゃったら
二度と会えないん
ですよ!!?
全部
終わっちゃうん
です!!!
そんなの
ダメです!!
…絶対…
ダメなんですっ!!!

うるさい!!!
ならどうしろと言うんだ!!!
ヤシマ軍にとって俺たちは人間ですらない
ヤツラはシズナを何の躊躇もなくいたぶり殺すだろう――
もう遅い…
すべて遅いんだ!!
ギ

いいえ

――ちっとも遅く
なんかありません

……!!?

ハァ

ハァ

くそっ!!!

ハァ

もういい
いくら打擲されてもこの女は吐かん
しかし…ッ
…氷姫にとって――
痛みも苦しみも我らにとってのそれとはケタ違いだと聞く――
ジュウウ
ザッ
重い火傷は不治に近い傷であり
この赤熱した鉄で身体中を灼かれてなおその強情が貫けるのか

――試させて
貰おう
旦那様…
シズナはここまでの
ようです
…最後までお側に
居られなかったこと
お許しください…
ズズ…
さあ吐け!!!
陸軍省から逃げた
クラークと名乗る稀人(マレビト)は
どこに匿われている!!?

止めろ!!!
カイがいます!!!
ア

あの人なら……
カイなら絶対に
そんなこと許しません!!!
シズナさんは
必ず無事です!!!

……!!
…それに私のことも絶対助けようとするでしょう
ありったけの知恵と力と…すべてを絞って
自分の命まで賭けて……
あの人は…そういう人なんです…
……

私とシズナさんを
交換するよう
要求を出して下さい
必ず
応じる筈です
……
いったい
どういう
おつもりか!!?

我々は
我々の基地を狙い
あまつさえアラギシ閣下の
命を狙った捕虜に
必要な尋問を
行っていただけだ
貴殿にそれを
邪魔する権利など
ないのだぞ!!?
いいえ
我々には
貴方に命令する
権利と…
そして義務が
あります
なんだと
……!!?

お忘れですか？
ヤシマノ国の政府は
天子様の名に於いて
我々レムリアンカンパニーに
最先端の軍事教育を
施すよう求められた
これは
その教育の
一環です
故に――
彼女は我が
レムリアンカンパニーの…
ひいては祖国アルビオンの
軍規に則り
捕虜として遇する
ことにします
――反論は許しません
く…!!

失礼します
少佐殿!!!

宿舎の壁に
このような
モノが!!

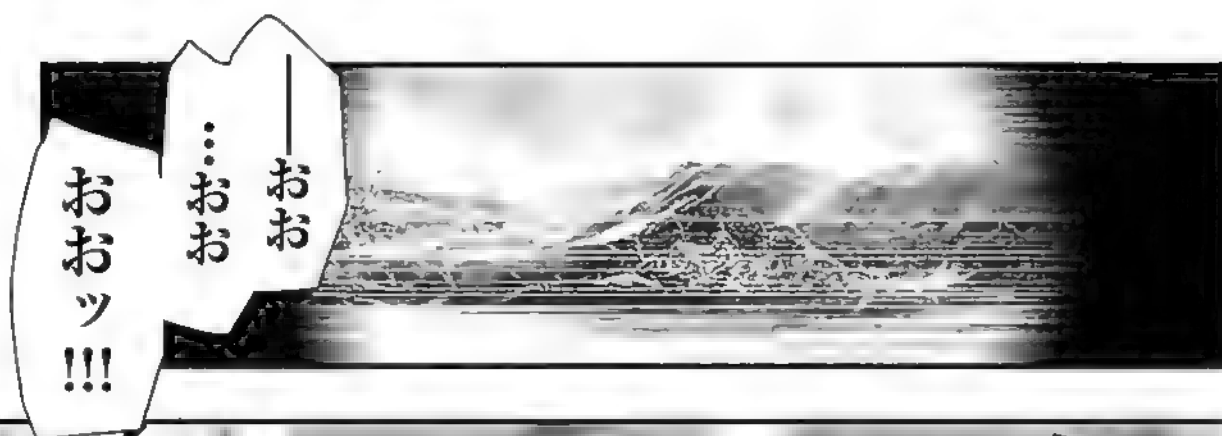
ハサスは
攫(さら)われた
我が方の
兵士との
人質交換を
申し出て
来ました

無論
我々はこれを
受け容れます

よろしいですね?
アラギシ従二位閣下

…っ…

好きにしろ

——おお
…おお
おおッ!!!

あれが!!
ヤシマノ国
ですか!!!

ホント楽しみでたまりませんねえ…!!!

【ヤシマノ国】

ヤシマノ国は、ほんの数十年前まで鎖国状態にあり世界と隔絶した独自の歴史を歩んでいた。しかし、近年になり、海外での植民地を拡大しているダーラやアルビオンの圧力に屈する形で開国し、現在に至る。長らく絶対主義的封建制が採られており、頂点に『天子』と呼ばれる、宗教的権威を伴う世襲制の王を戴き、以下、武力の提供と引き換えに土地を与えられた騎士的階級（ヤシマでは『武士』と称される）が、正一位を筆頭に、従一位、正二位、従二位……（以下、従八位まで存在）という位階を与えられる、一種の貴族制が行われている。また、人口の多数を占める鬼人種が他の種族や社会的弱者を奴隷的に支配しており、その身分・人種差別は前近代的と批判されることも多い。

【船舶技術の発展】

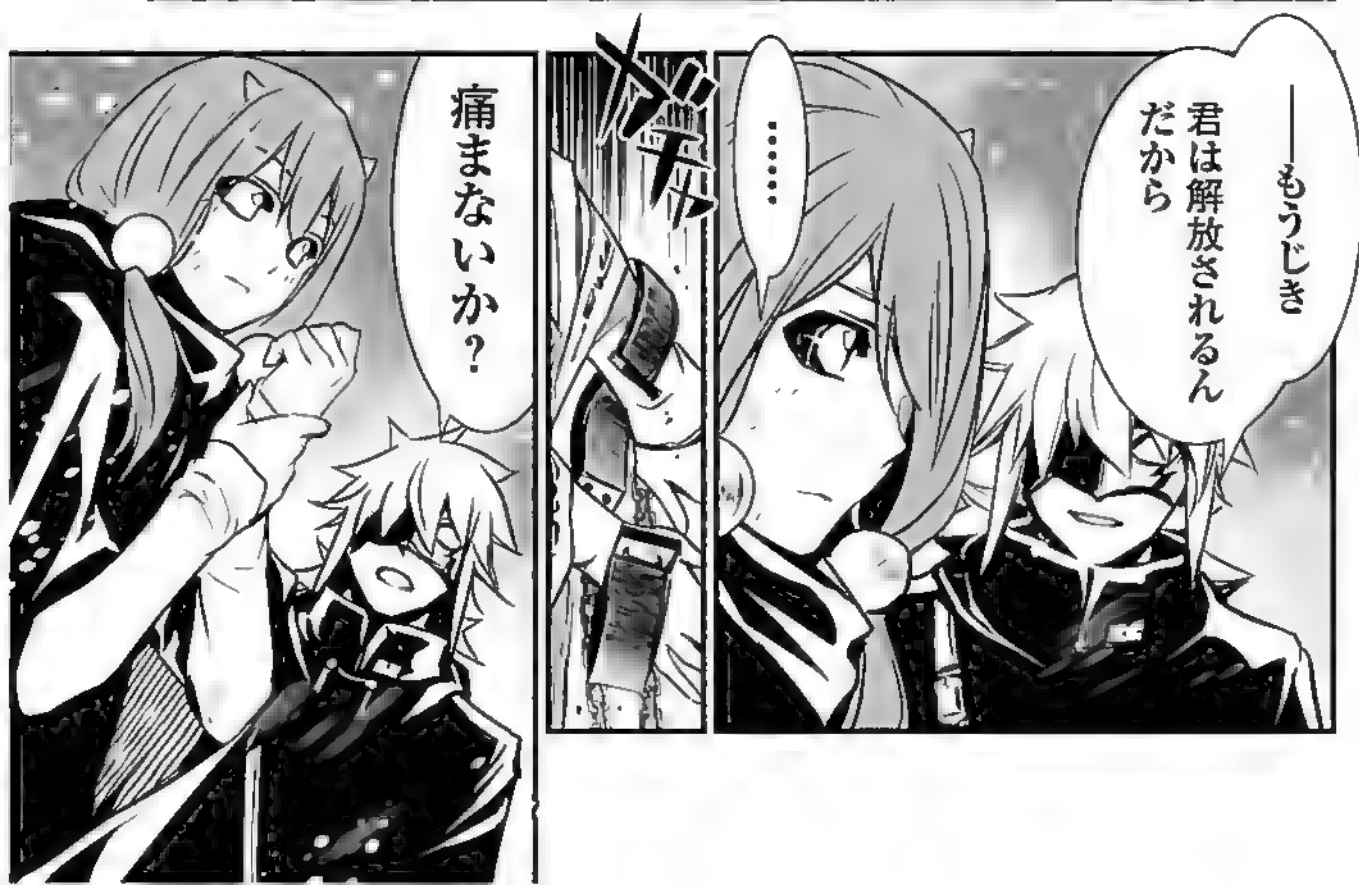
神々の時代には、風の神や水の神の力で船を動かすことが一般的であった。だが神々の多くは気まぐれであり、また土着的であったが故に大洋航海には力を貸すことは少なく、かつては、それが長距離航海を阻む大きな壁となっていた。しかし、神々との大断絶の後は、その力に頼らぬ航海手段が必要になり、自然の風を利用する帆船の再評価と研究が進み、風向きによらず船を進ませる事ができる三角帆の発明と、それに伴う大型帆船の発展によっていわゆる大航海時代が訪れる。さらに近年では、外輪船など蒸気機関を動力源に利用する船舶の研究も進んでおり、これらの科学の力によって、人々は神々の時代を遥かに超える海上移動能力を獲得するに至っている。

第23話／人質交換

捕虜を連れて来ました

体調は？

…問題ありません

それはよかった

…貴方は奇妙な人ですね

奇妙？

そうだな 自覚はある

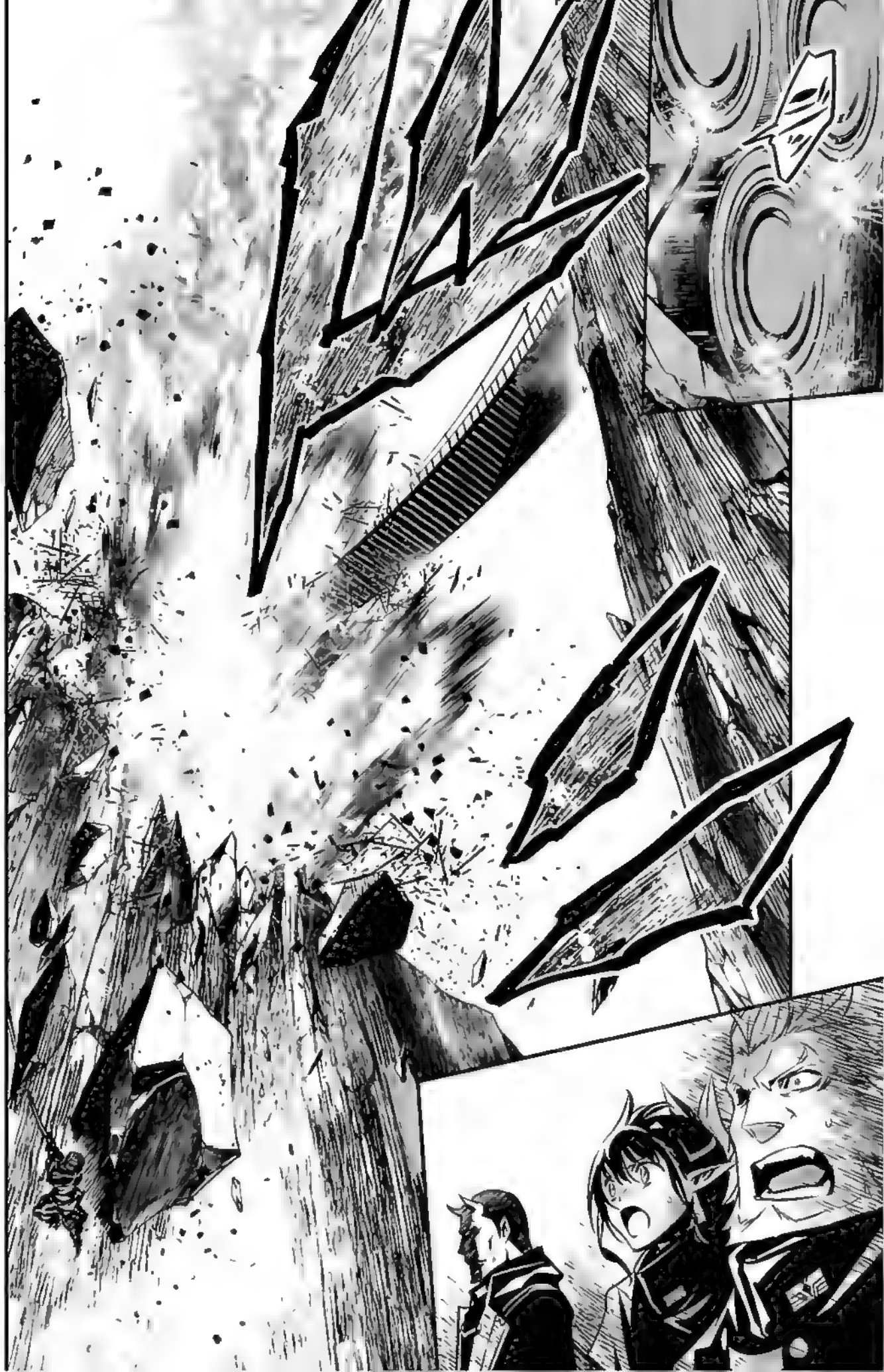
………

まさか本当に
無事で返そうと
するとはな…
とんだお人好しだ

それが
たとえ避けられない戦争だったとしても
俺は戦いには最低限のルールが必要だと思ってる

——これは
そのルールに従っただけのことだ
戦争にルール…だと?
特に科学が発展し
相手も——そして自分をも滅ぼせるような力を手にするこれからの時代には…な

…貴様は奇妙な男だ

彼女にも言われたよ 気の合う主従だね

人質が
歩き出しました

?

なんだ…!?
まさか爆弾!!?
やれ
は!!

爆弾だ!!!
下がれ
サクラさんっ!!!

うわああああーーっ!!!
カイーーーッ!!!

ズズ
そんな…
少佐…!!!
お前達の仕業か!!?
どういうつもりだ!!?
グレイ少佐も巻き込みやがって…!!
国際問題になるぞ!!!
責められる謂われはありませんな
貴方がたが自身の規律に則って捕虜交換を強要したように
我々もまた我々の規律に従い危険分子を処分したのみ――

ギッ
!!!
くっ
ダッ
私っ
捜しに行ってきます!!
カイさまならきっと——

お待ちください!!!

この天気
さらにまもなく
日も暮れます

いま出られては
二重遭難を招く
だけです

でも…!!

いまは
耐えてください

捜索に出たいのは
皆同じです

……!!

すみません
みな…さん…

身体が冷え切ってる
急いで戻って
温めないと…!!

……

待って下さい

でしたら
近くに
いい場所が
あります!!

シュウウ
コバキ従四位の主張は事実です
ヤシマ軍の上層部に抗議しても受け入れられない可能性が高いです…
くそっ…
呪装が禁呪扱いだってのは
外には知らされてなかった情報だ

歴史上――
ヤシマ朝廷が存亡の危機にさらされた事件が二度ほどありました
公的には『逆賊』とだけ記されていますが
そのどちらもが
〝禁呪の傀儡〟…呪装者が首謀者となった叛乱だったのです
それから…これはあくまで噂なのですが……
実は現在のハサスにも一人
神妃（アンブロシア）がいるのではないかと言われています

それが躍起になって今回の叛乱を平定しようとしている理由…!?
おそらく
やれやれとりあえずこの蒸し風呂のお陰で一息つけたが…
これからどう動くべきかは微妙だな
シュウウ…

捜索隊を出すにもこの吹雪が収まらないかぎりは…

ヤシマ軍の連中は協力してくれそうにありませんしねえ

……
大丈夫カイは無事です

!!?
神妃（アンブロシア）である私にはわかるんです
――カイは生きています
そう…なのですか？
えっと――
大丈夫です
ねえ ドルネアさん

安否を気遣って
動けなくなるよりも
いま私たちの
出来ることを
しましょう
カイに与えられていた
任務をこなし
彼がいつ戻っても
いいようにしておく
べきです
……!!

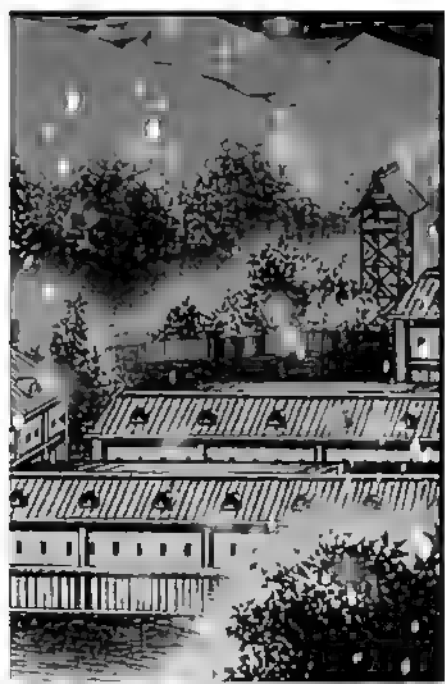
ザザッ
全速力で基地まで戻るぞ!!!
ビュオオオ
サクラさん…カイさまの無事がわかるというのは…
ガタガタ
もちろんウソです
ドルネアさんならわかるでしょう?
でももしあの場にカイがいたらどうしたか
——そう考えたら自然と口をついて出てしまいました
わぁ
サクラさん…!!

さすがです!!
私…思いつきもしませんでした!!
皆を鼓舞して前に進めるのもカイ様の神妃の役目ですよね!!
…信じましょうドルネアさん
きっとカイは無事です
はい!!
はくしょっ

グミュ
うう…
もっと火を
大きくできないのか？
カタ
薪になる木が
少ないんだ
カタ
シズナが集めて
くるまで我慢しろ
ガチ
あう…
ガチ
彼女
雪の中に来たら
生き返ったみたいに
元気になったたな
当たり前だろうが
氷姫とは
そういうものだ
…だが
意外だったよ
まさかお前が
俺を助けて
くれるとは
な
俺は
お前など
助けるつもりは
なかった
だが——

旦那さま
どうか…!!
ガッ
…っ!!
彼女に感謝しないとな
…一応貴様には借りもあったしな
借り?

ガランドアの戦場で一度 そして今回の件でもう一度
貴様はシズナの命を救った ——その借りだ
意外と義理堅いんだな
それに…
カイはそういう人なんです…
どうした？
——別に
寄るなうっとーしい
……
せまいんだよ!!
で お前はこの後どうするつもりだ

もう同じ手は使えない
一度村に戻って指示を仰ぐ
村…
ハサスの本拠地か
──ああ
……
ギル＝ガーラ
お前は俺に二度の借りがあると言ったな
そのもう一つも今返してほしい
何…？
俺を君達の本拠地に連れて行ってくれ
!!

グレイの件
首尾良く
行ったたか
は
既に捜索も
断念した
ようです

うむ…
これで
障害は
除かれた
ギ

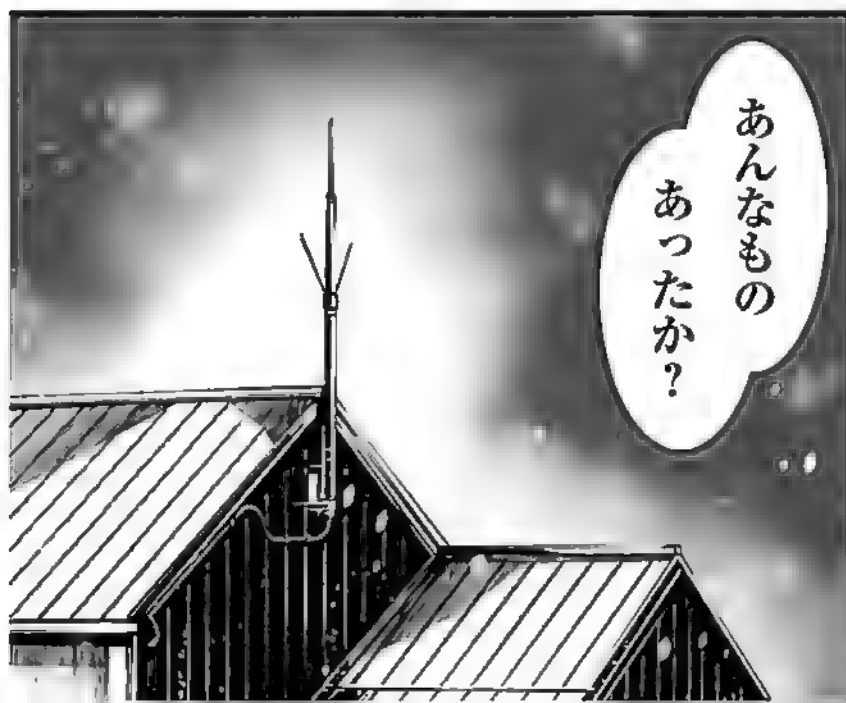
〃彼ら〃と
連絡を取れ
では…
いよいよですか!!
――ああ

さて
俺とグレイ少佐がリュカ殿下から指示されたのは
ヤシマノ国が突如向上させた技術力の謎を解くことだが――

俺も注意して見ていたんですが
兵達の武器も装備も旧来のものばかりで
『向上した技術』とやらが全然見えないんスよね

ああ そこが問題で――ん？

あんなものあったか？

…………
トトンツー
ツートト…
あの棒は
取り外し式
みたいだけど
……
一体
なんなんだ
……？

ここがハサスの村か…！
――馬鹿な奴だ
折角生かしてやったものを
この場所を知ってしまった以上
教母様がお前との会見を拒めば
お前はここで殺されることになるぞ
いちいち凄まなくていいよ
覚悟の上さ
ツイ

それに――多少の勝算はあるしな
旦那様!!
教母様がお会いになると!!
な?
グ…
あいかわらずハッタリとイチかバチかの賭けでしのいでるなぁ…おれ

だが
ハサスが優秀な
傭兵団だと言っても
所詮数は少ない
ヤシマ軍に数で
押し切られたら
全滅の憂き目に
遭う

陸軍省から逃げた
クラークという
マレビトはどこにいる!!
そして
あのとき聞こえた
言葉――

ヤシマノ国に
技術革新をもたらした
マレビトはハサスが
抱えこんでいるというのが
事実なら

それはおそらく
交渉のカードに
するため――
なら
話し合う余地は
ある筈だ

ミシ
ふむ
おまえが
〝れむりあん〟の
えるふか
ちょこ。
幼女!!?

何を呆けている
我らハサスの教母
鈴悧さまだ
……っ
レムリアン
カンパニー
グレイ・
エンフィールド
少佐です
お会いいただけて
光栄です
鈴悧さま
ぼすん

ときに〝ぐれい〟とやら――
まれびとが
どうしてえるふのふりをしておるのじゃ？
!!!

俺は亘理塊
二十一世紀の〝日本〟という国から
この地に喚ばれました
マレビトだったのか
……なるほどな
いまは故あって恩人の名とその立場を騙っておりますが
資格と権限は本物です

ですから
レムリアンの軍人
グレイ・エンフィールド
としてご相談に
あがりました
いうてみい

いま
ハサスは――
この北の地は
ヤシマノ国に
攻められようと
しており
貴方がたは
それをなんとか
退けたい
――それを我々に
手助けさせてください

…じゃが
おまえたちは
やしまに
やとわれている
のだろう?
われらにみかたすれば
けいやくいはん
れむりあんの
しんようは
ちにおちる

我々 レムリアンカンパニーは 傭兵集団ハサスに 依頼します

ハサス全体で 我々に雇われて ください

………!!

!!!
そうなれば
ハサスは我らの
同朋
もしヤシマが
ハサスを討つなら
それは我々
レムリアンカンパニーを
――ひいては
アルビオン王国に
弓引くことになる
そうなれば
契約違反は
彼らの方です
われわれは
たかいぞ
ほうしゅうは?

ぷ
ふふ
あはっ あはははは!!!
ケラ
ケラ
おもしろいやつじゃなおまえは

やとわれてやってもよいが――
それにはひとつじょうけんがある
――おまえは〝じゅそうしゃ〟だそうじゃの
――はい
わがほうにも〝あんぶろしあ〟がいる
いざというとき そのあんぶろしあの〝ねくたーる〟をすって われわれもまもれ
……!!
俺を武器として使う気ですか

……わかりました

あとでその神妃(アンブロシア)に会わせてください

もう あっておる

!!?

わらわが しんきじゃ

――おまえはわらわのちちをすい
ばけものとなってたたかうのじゃ

第24話／ハサスの教母

うふふ
ちちって…
それはさすがにマズいでしょ
ーーあれ？
へーぜん
ーーさて

これがヤシマの地図だ

ここが帝都〝スオウ〟で——

俺たちがいる北方基地はここだ

ガサ

このシロベッツというのは？

北方最大の街だ

ヤシマ政府は正式には認めてはいないが

この北の地と本土の間にも交易はあって

その為に栄えた街らしい

——ハサスの庇護(ひご)の下にな

ヤシマが時代の要請に合わせて国土統一を目論むのはわかるが…

だとしても急ぎ過ぎのように思えるが

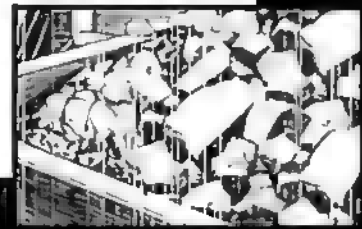
それはよく言われていることだ

理由のひとつには

北の地に鉱物資源が埋蔵されている可能性が高いことが

そしてもうひとつには——

この海峡を挟んでさらに北の半島部に

隣国アルタイが本格進出してきたことが大きいようだ

アルタイ？

かつては遊牧民の部族のゆるやかな集合体だったが

ここ10年ほどで大きく様変わりした

ダーラの属領となって以来な

……!!

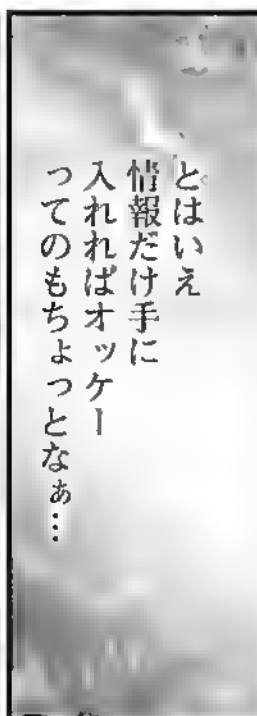
捨て置かれていたはずのこの北の地は

にわかに政治的にも重要な土地になっちまったってわけさ

おれたちの
任務は
あくまで
マレビトの持つ
技術情報を
探る事…

そういう意味じゃ
おれはヤシマ国の
情勢にクビを
突っ込み過ぎてる
よな…
ヤシマと
戦争する気か
このたわけ!!

とはいえ
情報だけ手に
入れればオッケー
ってのもちょっとなぁ…
パシャ
とにかく
なんとかして
マレビトと接触
しよう
きっとこの本拠地に
匿われている筈——
失礼いたします
ザバ

へ？
うわぁっ!!!
なっ
なななんです
貴女たちは!!
ザブ

鈴悧様にお仕えする巫女です
カイさまのお世話をするよう申しつかりました
ついてはお背中を流させていただこうかと
いやっその……
──厚意は有り難いが
そのようなもてなしは望んでいない
風呂ももう上がるし下がってもらえないか？
コホン

ですが
それで引き下がっては――
ザザ
私たち
鈴悧様に叱られてしまいます……
ッ、、
さ

ひた
遠慮なさらず…
むにぃ
ゆっ
湯あたりして
気絶しそう
なんだ
ご勘弁をっ!!!
ざぱあ
あん
もう…っ

では
せめてお食事の世話だけでもさせてくださいまし

これはまた…随分と豪勢ですね

野の獣を仕留めるのはハサスの子供たちの訓練でもありますので

貧しい里ですが食料に困ることが無いのだけは助かっております

…!!

この鍋に使われているのは

もしかして……

いただきます

やっぱり味噌だ…!!
もしや元いらした世界にもお味噌が？
——ええ
とても懐しい味です

マレビトの世界にもいろんな文化があるようですねえ
味噌や醤油がどうしても受けつけないという方も
いらっしゃるというのに
おや
俺の他にもマレビトとお会いになったことが？

うふふ
ご興味がおありで？
まだ他の方には会ったことがないのでね
——できるなら懐かしい世界の話もしたいですし
ともあれ
まずは御一献

俺は酒はあまり…

あら 呑んだら私… うっかりいろいろ 喋ってしまい そうな気分 なのですけど…

呑ませて探る気かな …？

――でしたら 仕方ありませんね

お付き合い します

ぐい―…

くい

ぷはー

まあ ご立派!!

追加のお酒 お願いできます？

とく とく

はーい!!
お酒お持ちしました!!

あら キキ
お前はこんなこと
しなくてもよいのに

でも
少しでもお役に
立ちたくて――

きゃあっ!!

バシャァ
申し訳ありませんっ!!
びしょお～…
もう
この子ったら
あらあら
ごめんなさい
グレイさま!!
……?

本当にすみません
マレビトさま…
気にしないでくれ
頭から呑む酒も
また旨いものさ
お優しいこと…ささ
もう一献
ぐびぃ
う…もう
これ以上は…
あらあら
大変
……皆
グレイ様を隣の寝所に

パタ

ふふ…
マレビトさま

シュル

いまより貴方は私の擒となっていただきます――

ガッ
酔わせて手込めにしようとは……

高貴な女性にしては
いささかはしたない
やり方では？
……!!

見かけによらず
…とよく言われるん
ですがね
俺は生憎ザルで
あの程度じゃ
酔いません

ふ
ふふふ…
人が悪い
ですねぇ貴方も

貴女ほどじゃ
ありませんよ

〝高貴な〟
と仰いましたが…
なぜそう
思われたのです？

先ほど
酒をこぼしたとき――
他の女の子たちが
客人の俺より貴女を
庇ったのでね

おそらく
鈴悧様の姉君か
――ことによると
母君
違いますか?
ほ
ほほ…
成る程
軍神グレイ…
流石
噂に違わぬ
切れ者ですのね
私は西の国々では
淫魔とか夢魔とか
呼ばれる種族…
男の精を吸い
使役する力が
あります

出来れば貴方を
私の擒にしてしまい
たかったのですけれど
レムリアンの軍人
グレイとしての地位
――そしてマレビト
としての知識を共に
手に入れるために

――こちらに
マレビトが匿われて
いると聞きました
会わせていただけ
ませんか?
承知しました
え、
即答ですか…!!

未熟な……

俺は試されたわけですね？

私 これでも男を見る目には自信がありますのよ

あのっ
こちらが――
ガラガラ

作業してるとどうしても集中してしまってね

心配したんですよっ!!

ごめんなキキ

およ

で君が噂のマレビトか

日本からだって?西暦何年だい!?

2016年です

ガタ
21世紀だってぇ!!?
なら知ってるだろう!!?
ヒトラーは!!?

アイツはどうなったんだ!!?

連合軍に追い詰められて最後は自決してます
たしか45年の春だったような…

よおおっし!!!
自由の勝利だ!!!
僕は1945年のヨーロッパ戦線から来たんだ

アメリカ人だ
元は無線技師で――
徴兵されて
通信兵をやっていた

ああ
それで
あの無線を…
そういうことさ
あれはもう
ほとんど完成してるんだけどね
これで
コッチで作った
四台目になるかな
部品集めが大変で…

彼女を幸せにしたくてね
キキは僕の世話をするために買われた奴隷だったんだ
…君もこのヤシマノ国の人種差別は知ってるだろう?
——ええ
ギュ
こんなに可愛くて…心も美しい女性なのに
ヤシマの連中は彼女を蔑み虐待していた
——耐えられなかった
僕がいくら言っても彼らの扱いは変わらず…

だがそんなとき
無線機を北方司令部に
設置する話が
持ち上がった
──そこで僕は
なんとか彼女を
同行させて
隙を見て
逃亡し
この里に逃げて
来たというわけさ
この北の地と
ハサスの噂は
聞いていたからね
クラークさま
……
キキ…
ときにクラーク殿
先ほど
その無線機が
四台目と
言ってましたが
……

一つは帝都に
二つめは北方司令部に
では三つ目はどこに?

あのガチガチな鬼司令…アラギシでしたか

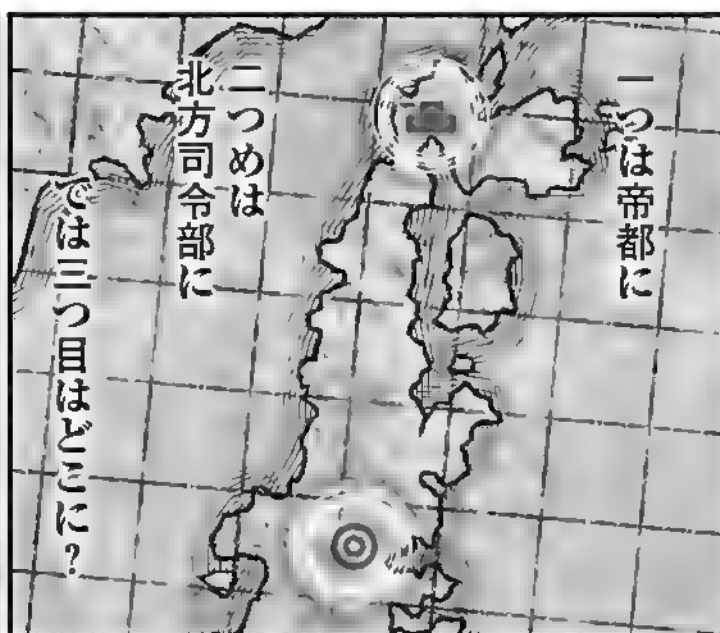
彼に命令されて予備パーツをはたいて急遽作ったんですよ
ガ
!!

奇妙な命令でしたこの車両に搭載可能にするように
と
ガサ
これは…!!

アルタイの第四工廠から早馬が来ました

――例の新型兵器が明朝出航すると

それは!!

よい知らせですが――

全ての知識を!!!
私のモノにしたいですねぇ…
次の定時連絡は明日だったな
は!!
――アラギシたちに作戦決行日時を送れ
ォォォ

ヤシマ軍
北方司令基地

物資の積み込み急げ!!
弾薬の確認忘れるな!!
各中隊長は大隊長の元に集合!!

これは…!?

どういうことですかアラギシ殿!!!
我々は三日後

棄民たちの街〝シロベッ〟に対して
攻撃を仕掛けます

後方でも結構です
――軍事指導の為に参りましたが
我々にもまた勇猛で知られるヤシマ軍の勲し学ばせていただければ幸いです
ほう…
…相談も無しにすみません
ですが
グレイ少佐ならきっとただ見過ごすことはしない…そう思ったので
二年前より随分と魅力的になられたリギア殿

それが少佐の影響なら
正直妬けますな
い
いきなり何を…っ!!
ザァ
ザザァ
ドオオオ
オオオオ

ドガァァ
ァァ

待ち伏せされてる……!!?
全中隊展開せよ!!
小癪な…棄民の分際で!!!
はっ!!

ハサス側は
思った以上に
統制が取れて
いるな
…こいつは
いい勝負に
なっちまう
可能性が…
ディアス大佐!!
見てください!!
あれは…!!

あれは…っ!!
ザザ
ザザ
あれは…

カイ!!!!
『神呪のネクタール』第⑥巻／完

神呪世界紀行

【〝海賊将軍〟キャプテン・ディアス】

ディアス伯爵家の跡継ぎに生まれたジャック・ディアスは、貴族の慣例に従って14歳になると軍に入隊、その後十数年をアルビオン海軍の軍人として過ごす。彼の所属した第四艦隊は通称『海賊艦隊』と呼ばれ、王の許可証を得つつ、国籍などを隠しいわゆる〝海賊〟を装い外国船を拿捕する私掠船業務に当たっており、この海賊行為で勇名を馳せた為、ジャックは国内外から、本来の階級を無視して『海賊将軍』の綽名で呼ばれることとなった。父親の死によって爵位と領地を継ぐため一時海軍を去るが、若年だった弟が長じて領地経営を任せられるようになるとレムリアンカンパニーの所属として軍籍に復帰、マラガ支部のリュカ・ローシェル支配人の下、マラガ駐留艦隊の司令官となっている。

【ハサスと北の地の民】

いわゆる『北の地』と呼ばれるヤシマノ国の北部は、その寒冷な気候の過酷さにより長らく中央からは放置されてきた。そんな北の地で、ごく少数の原住民と、初期に北の地に辿り着いたとされる犯罪者集団（諸説ある）が、この土地の原始宗教を基盤として結びついた共同体が、後に『ハサス』と呼ばれる傭兵・暗殺者集団の起源であると言われている。この過酷な環境で生き抜くために彼らは戦闘・暗殺技術を磨き、それを輸出して外貨を稼ぐ一方、北の地に流入してきていた犯罪者や逃亡奴隷などによる流民の村を組織化し、北の地の指導的立場に立ってゆく。ハサスの長は代々女性が継ぐことが決まっており、彼女たちは『教母』と呼ばれ、実質的な北の地の支配者となっている。

前巻から数ヶ月のご無沙汰です。
『神呪のネクタール』第6巻、手にしていただき本当にありがとうございます!

× × ×

この作品を始めたときから、いつかはカイを、東洋風というかぶっちゃけ日本っぽい国に行かせて冒険させてみたいなーなどと思っておりました。

——で、念願叶って今回のヤシマ編となるわけですが、担当さんとの打ち合わせで「前回(ネレイド編)が南の島だったし、今度は一気にカイたちを極寒の地とかに放り込みましょーか」などと盛り上がったせいで、気付いたら、ただただ白い雪景色が連続することとなり、和風なんだかよくわからない状況になってしまいました(汗)。

でも、佐藤さんがハサスのアジトなどの美術設定で頑張ってくれたおかげで、そこそこそれっぽい雰囲気は出せたかな……? いつもいろいろ無茶言ってごめん、ありがとう佐藤さん——ということで、ちょっと和風なヤシマ編、決着は次巻に続きます。

× × ×

さあ、果たしてカイは、この規制の厳しい時代にロリ少女のおっぱいを吸えるのか? そして段々インフレしてゆく科学技術が産み出すダーラの新兵器とは!? 次巻もますます熱く激しく展開して行くつもりですので、皆さんも引き続き応援のほど、何卒よろしくお願いいたします!!

如月某日 吉野弘幸

ラクガキのおくたーる
ヤシマノ国に到着
ドルネア様お着替えはお済みですか？
はい
誰!!？
どぉしても素顔のまま人前に出る勇気が……

掟!!
ドワーフ女性はみだりに肌（特に顔）を晒してはならない!!!のだ
恥ずかしい…
こんな状況で食事にありつけるとは…
シズナさんに感謝しないとな
パチ
パチ
キレイだ…
将来の伴侶になら お見せしても構わないのですが…
カイさま
ざばあ!!!
旦那さま～
キレイだ…
キレイだ（エコー）
…
…にしても
本ッ当～に寒くないの!?
びゅーーー…
だから 氷姫とはそーゆーものなんだよ
くい

神呪(しんじゅ)のネクタール⑥

2019年3月25日　初版発行

著　者　吉野弘幸(よしのひろゆき)・作

佐藤健悦(さとうけんえつ)・画

発行者　石井健太朗

発行所　株式会社 秋田書店

〒102-8101　東京都千代田区飯田橋2-10-8
☎編集(03)3265-1326　販売(03)3264-7248
製作(03)3265-7373
振替口座 00130-0-99353

印刷所　大日本印刷株式会社

Printed in Japan

ISBN978-4-253-23831-1

デジタル版　2019年発行
製作所　デジタルカタパルト株式会社
http://www.digital-catapult.com